

無料低額宿泊所の設備及び運営の基準に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、無料低額宿泊所の設備及び運営の基準に関する条例（令和3年長野県条例第 号。以下「条例」という。）の規定に基づき、条例の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(サテライト型住居の数等)

第2条 条例第12条第3項の規則で定める基準は、次の各号に掲げる職員配置の区分に応じ、当該各号に定める数とする。

- (1) 条例第7条第1項及び第3項の要件を満たす者が施設長のみ 4以下
- (2) 条例第7条第1項及び第3項の要件を満たす者が施設長のほか1人以上 8以下

2 条例第12条第4項の規則で定める基準は、次の各号に掲げる職員配置の区分に応じ、当該各号に定める人数とする。

- (1) 条例第7条第1項及び第3項の要件を満たす者が施設長のみ 20人以下
- (2) 条例第7条第1項及び第3項の要件を満たす者が施設長のほか1人以上 40人以下

(設備)

第3条 条例第13条第6項の規定により定める設備の基準は、次の各号に掲げる設備の区分に応じ、当該各号に定める基準とする。

(1) 居室 次に定める基準

ア 一の居室の定員は、1人とすること。ただし、入居者がその者と生計を一にする配偶者その他の親族と同居するなど2人以上で入居させることがサービスの提供上必要と認められる場合は、この限りでない。

イ 地階に設けてはならないこと。

ウ 一の居室の床面積（収納設備を除く。）は、7.43平方メートル以上とすること。

エ 居室の扉は、堅固なものとし、居室ごとに設けること。

オ 出入口は、屋外、廊下又は広間のいずれかに直接面していること。

カ 各居室の間仕切壁は、堅固なものとし、天井まで達していること。

(2) 炊事設備 火気を使用する部分は、不燃材料を用いること。

(3) 洗面所 入居定員に適したものを設けること。

(4) 便所 入居定員に適したものを設けること。

(5) 浴室 次に定める基準

ア 入居定員に適したものを設けること。

イ 浴槽を設けること。

(6) 洗濯室又は洗濯場 入居定員に適したものを設けること。

(重要事項の説明等)

第4条 無料低額宿泊所は、入居申込者からの申出があった場合には、当該入居申込者の承諾を得て、条例第15条第1項の重要事項並びに同条第2項の契約期間及び解約に関する事項（以下この条において「重要事項等」という。）を、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって次に掲げるもの（以下この条において「電磁的方法」という。）により提供することができる。この場合において、当該無料低額宿泊所は、当該重要事項を記載した文書を交付したものとみなす。

(1) 電子情報処理組織を使用する方法のうちア又はイに掲げるもの

ア 無料低額宿泊所の使用に係る電子計算機と入居申込者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

イ 無料低額宿泊所の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された重要事項等を電気通信回線を通じて入居申込者の閲覧に供し、当該入居申込者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該重要事項等を記録する方法（電磁的方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあっては、無料低額宿泊所の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）

(2) 磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物をもって調製するファイルに重要事項等を記録したものを交付する方法

2 前項に規定する方法は、入居申込者がファイルへの記録を出力することにより文書を作成することができるものでなければならない。

3 第1項の電子情報処理組織とは、無料低額宿泊所の使用に係る電子計算機と入居申込者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。

4 無料低額宿泊所は、第1項の規定により重要事項等を提供しようとするときは、あらかじめ、当該入居申込者に対し、その用いる電磁的方法における次に掲げる事項を示し、文書又は電磁的方法により当該入居申込者の承諾を得なければならない。

(1) 第1項各号に掲げる方法のうち当該無料低額宿泊所が使用するもの

(2) ファイルへの記録の方式

5 無料低額宿泊所は、前項の規定による承諾をした入居申込者から重要事項等の提供を電磁的方法により受けない旨の申出があったときは、当該入居申込者に対し、当該重要事項等の提供を電磁的方法によってしてはならない。ただし、当該入居申込者が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。

(利用料の受領)

第5条 条例第17条の規定により無料低額宿泊所が受けることができる利用料の支払は、次に掲げる費用に係るものとする。

- (1) 食事の提供に要する費用
- (2) 居室使用料
- (3) 共益費
- (4) 光熱水費
- (5) 日用品費
- (6) 基本サービス費
- (7) 入居者が選定する日常生活上の支援に関するサービスの提供に要する費用（当該無料低額宿泊所が日常生活支援住居施設である場合に限る。）

2 前項の利用料の基準は、次の各号に掲げる費用の区分に応じ、当該各号に定める基準とする。

- (1) 食事の提供に要する費用 食材費及び調理等に関する費用に相当する金額とすること。
- (2) 居室使用料 次に定める基準
 - ア 無料低額宿泊所の整備に要した費用、修繕費、管理事務費、地代に相当する額等を基礎として合理的に算定された金額とすること。
 - イ アの金額以外に、敷金、権利金、謝金等の金品を受領しないこと。
- (3) 共益費 共用部分の清掃、備品の整備等の共用部分の維持管理に要する費用に相当する金額とすること。
- (4) 光熱水費 居室及び共用部分に係る光熱水費に相当する金額とすること。
- (5) 日用品費 入居者本人が使用する日用品の購入費に相当する金額とすること。
- (6) 基本サービス費 入居者の状況把握等の業務に係る人件費、事務費等に相当する金額とすること。
- (7) 入居者が選定する日常生活上の支援に関するサービスの提供に要する費用 次に定める基準
 - ア 人件費、事務費等（前号の基本サービス費に係るものを除く。）に相当する金額とすること。
 - イ 日常生活支援住居施設として受領する委託費を除くこと。

(日常生活に係る金銭の管理)

第6条 条例第27条ただし書の規定による金銭の管理は、次に掲げるところにより行うものとする。

- (1) 成年後見制度その他の金銭の管理に係る制度をできる限り活用すること。
- (2) 無料低額宿泊所が管理する金銭は、当該入居者に係る金銭及びこれに準ずるもの（これらの運用により生じた収益を含む。以下この条において「金銭等」という。）

であって、日常生活を営むために必要な金額に限ること。

- (3) 金銭等を無料低額宿泊所が有する他の財産と区分すること。
- (4) 金銭等は当該入居者の意思を尊重して管理すること。
- (5) 条例第15条第1項に規定する契約とは別に、当該入居者の日常生活に係る金銭等の管理に係る事項のみを内容とする契約を締結すること。
- (6) 金銭等の出納を行う場合は、無料低額宿泊所の職員が2人以上で確認を行うなどの適切な体制を整備すること。
- (7) 入居者ごとに金銭等の収支の状況を明らかにする帳簿を整備するとともに、収支の記録について定期的に入居者本人に報告すること。
- (8) 当該入居者が退居する場合は、速やかに、管理する金銭等を当該入居者に返還すること。
- (9) 金銭等の詳細な管理方法、入居者本人に対する収支の記録の報告方法等について管理規程を定めること。
- (10) 前号の管理規程を定め、又は変更したときは、知事に届け出ること。
- (11) 当該入居者が被保護者である場合は、当該入居者の金銭等の管理に係る契約の締結時又は変更時には、福祉事務所にその旨の報告を行うこと。
- (12) 金銭等の管理の状況について、県の求めに応じて速やかに報告できる体制を整えておくこと。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。ただし、第2条の規定は、令和4年4月1日から施行する。